

教室2 商品開発プロジェクト「地域食材でご当地バーガーづくり」 第1回レポート

教室2は、商品開発プロジェクト「地域食材でご当地バーガーづくり」。この教室では、地域の食材を使った「ご当地バーガー」を開発し、ご当地グルメとして広めていく方法をさまざまな視点で考えます。

講師は、香南市地域おこし協力隊の小川麻里子さんと、中土佐町地域おこし協力隊のディギーさんです。まずは講師のお二人がなぜ高知に来たか？という自己紹介から始まりました。



小さいころからお菓子作りや英語など、いろいろなことに興味があり、好きなことに寄り添った人生を歩んできた小川さん。会社員生活の後、フィリピンで暮らす中で価値観が変化し、高知にたどり着いたディギーさん。東京生まれ東京育ちの二人が、ここ高知に惹かれて移り住み、どんなことを大切に思っているかを丁寧にお話しいただきました。



その後は、受講生の皆さん1人ずつの自己紹介です。班に分かれ、「カタルタ」というカードを使い、「名前／得意なこと／この教室に参加した理由」について話しました。カタルタは「偶然にも」「そもそも」「言い換えれば」など、いろいろな副詞や接続詞が書かれた54枚のカードです。受講生はそれぞれ3枚のカードを配られ、そこに書かれた言葉を組み込みながら自己紹介をしました。

皆さん、言葉の組み合わせの意外性に「難しいな～」と頭を悩ませつつも、時に笑いも起こる和やかな雰囲気でした。

その後、講師の小川さん、ディギーさんから「この教室で開発するご当地バーガーを、地域外から人が食べに来たり、その人が『おいしかったから行ってみたい』と周りに広げたりする動きが生まれればいい。長浜・御畳瀬・浦戸地域の関係人口を増やす



きっかけの一つになれるのではないか」と、教室の目標を語っていただきました。

(関係人口：移住した「定住人口」でも観光に来た「交流人口」でもなく、地域と多様に関わる人々を指す言葉。総務省ホームページより)



最後に、受講生同士で長浜・御豊瀬・浦戸地域について、知っていることを話しました。昔、御豊瀬にあったお店のことや、長浜のどろんこ祭りなどが話題に上り、地域外から参加した受講生の方も興味深そうに質問していました。

今回は、教室の外に出てフィールドワークやヒアリング。実際に地域を見ながら、どんなご当地バーガーを作るか、想像を膨らませていきます。